

## 通船路としての役割を担った運河

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第 0 1 6 号
名称 (型式等)	利根運河
所在地	千葉県流山市・柏市・野田市
設立(竣工)年	明治 23 (1890) 年

### 選定理由

利根運河は、千葉県の流山市・柏市・野田市の 3 市に接し、利根川と江戸川を結ぶ全長 8.5km の運河で、オランダ人技師ムルデルの計画に基づき、民間会社によって建設されました。

江戸末期、北海道や東北の生産物を大量に早く江戸へと届けるため、利根川と江戸川を使った舟運航路が多く利用されました。しかし、利根川と江戸川が分かれる部分である江戸川流頭部（現・野田市関宿地区）には、利根川の洪水時に江戸川への流入量を制限する棒出しが設置されており、水面幅が狭く航行最大の難所でした。

利根運河は、その難所を避けるため、江戸川～利根川間を結ぶバイパスの水運ルートとして、明治 21(1888)年に起工式が行われ、明治 23(1890)年 2 月に全線通水、同年 6 月に完成しました。

運河の完成により、銚子－東京間は流頭部を通る航路よりも、距離にして約 40 キロ、時間にして 3 日を 1 日に短縮できるようになり、時間・費用が大きく軽減したことで、多くの舟が運河を往来しました。鉄道や他の陸上交通機関の発達に伴い舟運が衰退し、航路としての役目を終える昭和 16 (1941) 年までの約 50 年間で約 100 万隻、年平均 2 万隻もの船が利根運河を利用しました。

本来の地形を最大限に活用して開削され、今もなお、建設当初の運河の形態や自然環境が残されています。現在は、利根運河水辺公園をはじめとし、人々の憩いの場として親しまれ、平成 18(2006)年には土木学会推奨土木遺産に、平成 19(2007)年には「激しい産地間競争等を通じ近代産業へと発展した利根川流域等の醸造業の歩みを物語る近代化産業遺産群」として経済産業省認定「近代化産業遺産」にも認定されています。



写真：利根運河

協力：国土交通省関東地方整備局 江戸川河川事務所・関東技術事務所